

幼児の家庭，地域，および幼稚園生活における 自然とのふれ合いに関する研究

池山和子*・島田俊秀**

(1988年10月15日 受理)

A Study of the Natural environments and its correlations in life of an Infant

Kazuko IKEYAMA, Toshihide SHIMADA

I はじめに—自然環境及び自然とのふれ合いのもつ意味

子供は歩けるようになると四肢や諸感覚器官を用いてまわりの環境に働きかけ，自分にとって未知のものを探索する。手でさわり，臭いを嗅ぎ，たたいて音を出し，口に入れる等の行動によって，そのものの性質を調査する。さらに，自分の力で統制できるかどうかを確認した上で，それを認識していく。このような一連の活動が，すなわち子供の「遊び」である。子供の遊び活動には，探索—調査—確認—認識といった過程が含まれている。この過程は，子供にとっては環境に働きかけ自ら社会化（成長・発達）していく学習活動である。子供のこの種の学習活動「遊び」は，他人からの命令や指示によって強制されたものではなく，ほめてもらうための活動でもない。子供が自分の内から発した内発的動機づけによって自発的・主体的に行う行動である。

子供は遊びを通して，次のような心身両面での発達を促進させる。(イ)身体的・運動的能力の発達を促進させる。(ロ)環境についての知識を広め，思考力，想像力，および創造力を発達させる。(ハ)自分や他人を知り，対人関係のマナーを学び，約束ごとを学び，協調すること協力することを学ぶ。(ニ)道徳性や自発性・自主性等の人格形成を促進させる。(ホ)情緒的な緊張や欲求不満を解消することを学ぶ。

最近，遊ばない，遊べない，遊びを知らない子供が増加している。心身共に健康な子供を育てるということは，活発に遊べる子供を育てることである。そのためには，子供が置かれている環境条件を検討し，遊び活動を活発にするための環境の調整を図らなければならない。

幼児を取りまく環境には，家庭環境，学校環境，および地域環境がある。これらいずれの環境も

* 鹿児島大学教育学部家政科

** 鹿児島大学教育学部心理学科

***本研究は文部省指定鹿児島県教育委員会学校教育課による「幼稚園教育の在り方についての実践的調査研究」研究推進協力委員会（会長 島田俊秀）における研究の一部であり，ここに付記して各委員並びに研究協力園に対し厚く謝辞を申し上げます。

場、物、および人の3要因から構成されている。環境を構成している要因としての「場」というのは、生活空間を構成している各種の自然的条件・物理的条件・地理的条件、あるいは空間の位置方位、広狭などの諸条件である。これらの諸条件の中でも、特に現代の子供の遊びを妨げ、ひいては子供の円満な人格の育成を妨げているものは、自然的条件の欠落であると考えられる。

もともと子供たちが遊ぶということは、環境に働きかけ、そこから生じる刺激を求めるためである。そのためには環境は子供たちの働きかけに対して応答するような不確実性の要素を含んだ可変的な環境でなければならない。ところが現代は、経済的な繁栄の名のもとに、自然破壊が進められてきた。子供たちの近辺からは、緑の草や木も、小鳥や小動物も失われ、大都会では高層ビルや大気汚染によって太陽も月や星を見ることさえもできない。また高度に発達した文明化・機械化した生活の中では、とりわけ大都会の子供たちは、外出や通園でもバスや自家用車を用い、四肢を動かせる機会は少なくなり、子供自らの筋肉を鍛練する機会を失いかけている。

自然が破壊され人工化、合理化、規格化された環境では、子供たちの遊びは失われ、身体は軟弱になるばかりか、心は機械のようにひからび、美しいもの、善なるものに対して何ら感動することも愛することもできない、いわば美的情操も倫理的情操も失ってしまうおそれがある。

現代のこのような状況下で鹿児島県は現在文部省の委託を受け、自然とのふれ合いを中心とした望ましい幼稚園教育の在り方についての実践的調査研究を行っている。その基礎資料として鹿児島県の子供の自然との関わりに関する実態調査を行った。

今回は記入者つまり保護者の幼少のころと現在の子供たちを比較しながら、現在の子供たちの自然とのふれ合いの様子、さらに性差、年齢による傾向について考察する。

II 調査の方法

(1) 調査の時期と調査用紙の配布の方法

1987年(昭和62年)10月から11月にかけて各園を通じて配布、回収した。

(2) 調査対象児

対象児は、文部省の委託を受けて鹿児島県が実施している「幼稚園教育の在り方についての実践的調査研究」の研究協力幼稚園3園の各園園児の保護者、全園児数は356名である。

回収率100% (356名)

調査対象児の年齢別構成比や男女別対象児数、居住環境別対象児数等は〔図1〕から〔図4〕のとおりである。〔図3〕の年齢別対象児数については、満年齢3歳児は3名と数が少なかったため、分析から省いた。

(3) 質問項目

幼児と自然とのふれ合いの実態についてできるだけ多くの角度から、生活実感に近い回答が得られるよう14問の質問を設け、できるだけ選択肢を設けるよう努めた。(巻末参考資料を参照されたい)

図1 記入者別対象児数と構成比

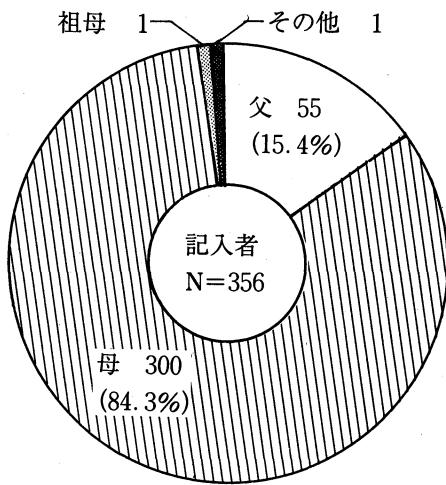


図2 男女別対象児数と構成比

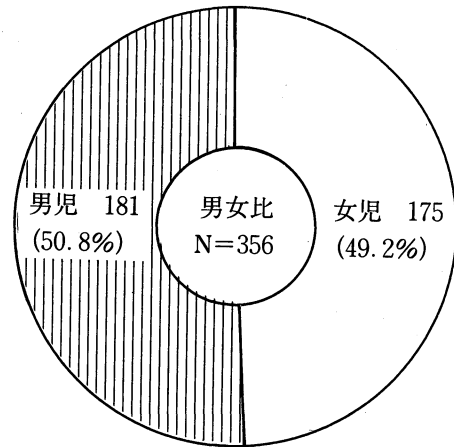


図3 年齢別対象児数と構成比

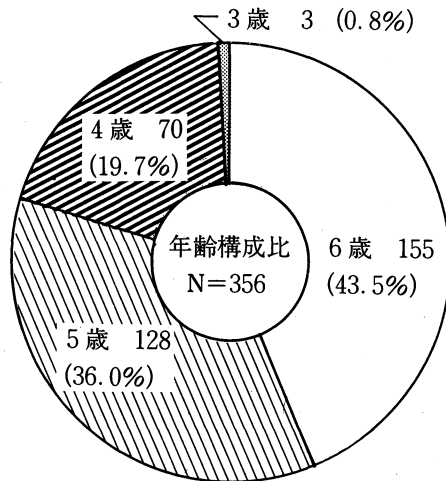
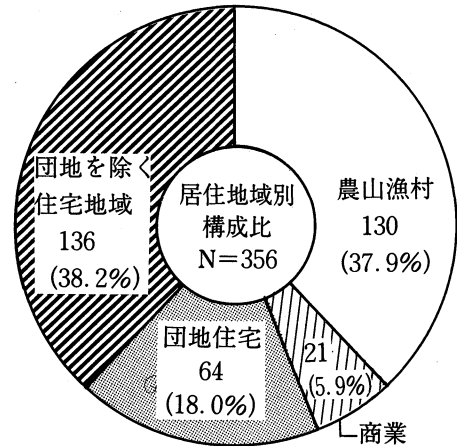


図4 居住地域別対象児数と構成比



本報告では質問(1)から質問(13)までの結果について考察する。

質問(1)・(3)・(4)……遊びの場所に関する質問。質問(4)は具体的な場所をいくつか挙げ、各々について「よくある」、「時々ある」、「殆どない」の3段階評定によって回答を求めた。

質問(5)・(6)・(7)・(12)は、自然と直接ふれ合う遊びや体験の有無、頻度に関する質問で、それぞれ具体的な遊びや行動・体験を挙げ、質問(4)と同じく3段階評定によって回答を求めた。

質問(8)……天文、植物、物理現象など自然の事象を挙げ、大人に質問したり、話合ったりした経験の頻度についての質問で、質問(4)とやはり同じく3段階評定によって回答を求めた。

質問(9)・(10)・(11)は、各家庭で生き物・植物を飼育、栽培したことがあるかどうか、さらに具体的な飼育、栽培のかたちについて質問した。

質問(1)~(7)には記入者の幼少のころについて、現在の子供に対する問いと同じ問いの回答を求めた。

Ⅲ 調査の結果〔1〕

(1) 現在の子供たちの様子—記入者の幼少のころと比較して—

① 遊びの場所

まず〔表1〕にみられるように、現在の子供たちで戸外遊びを室内遊びより好む子供は四割をこえているが、戸外遊び、室内遊び、どちらも同じくらい好きの3項目で記入者の幼少のころと比較すると、戸外遊びへの指向は記入者の時代と比べて減少している。

〔表2〕はいつも遊んでいる場所を3つ選択して回答を求めた。その結果、現在の子供たちは自分の家の庭、友達の家、道路、グラウンド・公園などの整地された土地で遊んでいることが記入者の幼少のころと比べて多く、それに対して、記入者の幼少のころは現在の子供たちと比べて神社やお寺、田畑、川、野原など整地されていない土地で遊ぶことが明らかに多かった。

〔表3〕は具体的な場所を挙げ、それぞれの場所について遊びの頻度について回答を求めたものである。

現在の子供たちが記入者の幼少のころと比べて明らかによく遊んでいると思われる場所としては、アスレチック・ブランコなどのある遊園地、砂場、花壇などのある整備された場所、動物園を挙げることができる。一方、記入者の幼少のころの方がよく遊んでいたと思われる場所としては、広い芝生や草地、木や草の多い整備されていない場所、川原・小川・田・小さな池など、海岸、土手・崖、牛・にわとりなどの家畜のいるところ、小人数でゲームなどのできる空き地、さらに山林・森などのスリルのあるところを挙げることができる。

② 戸外で一緒に遊ぶ人

〔表4〕にみられるように、現在の子供たちにおいても約半数が同年齢の友達と戸外で遊ぶこと

表1 戸外遊びと室内遊びどちらが好きか

	現在の子供	記入者の幼少時
ア 室内遊び	30(10.1%)	24(8.1%)
イ 戸外遊び	131(44.0%)	183(61.4%)
ウ 同じ	136(45.6%)	83(27.9%)
エ わからない	—	3(1.0%)
オ 遊ばない	—	5(1.7%)
無回答	1(0.3%)	—

ア・イ・ウの3項目で $\chi^2=21.719$ $P<0.01$

表2 戸外でいつも遊ぶ場所—現在の子供と記入者の幼少のころ

	現在の子供	記入者の幼少時	
ア 自分の家の庭	249(83.6%)	210(70.5%)	** $\chi^2=13.922$
イ 友達の家	216(72.5%)	182(61.1%)	** $\chi^2=8.141$
ウ 道路	96(32.2%)	71(23.8%)	* $\chi^2=4.896$
エ 神社やお寺	10(3.4%)	30(10.1%)	** $\chi^2=10.963$
オ 田畑	39(13.1%)	79(26.5%)	** $\chi^2=17.538$
カ 川	10(3.4%)	46(15.4%)	** $\chi^2=26.025$
キ 海	10(3.4%)	16(5.4%)	
ク 山	2(0.7%)	38(12.8%)	
ケ 整地された土地	165(55.4%)	57(19.1%)	** $\chi^2=83.238$
コ 整地されていない土地	52(17.4%)	129(43.3%)	** $\chi^2=48.743$

(* $P<0.05$ ** $P<0.01$) (各 $df=2$)

表3 戸外でよく遊ぶ場所遊ばない場所

	現 在 の 子 供			記入者の幼少のころ			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア アスレチック・ブランコなどのある遊園地	64 (21.5%)	192 (64.6%)	41 (13.8%)	19 (6.5%)	84 (28.7%)	190 (64.8%)	** $\chi^2=162.840$
イ ジェットコースター・ティーカップなどのある遊園地	7 (2.4%)	179 (60.5%)	110 (37.2%)	2 (0.7%)	65 (22.1%)	227 (77.2%)	
ウ 砂 場	174 (58.6%)	99 (33.3%)	24 (8.1%)	94 (32.0%)	142 (48.3%)	58 (19.7%)	** $\chi^2=46.098$
エ 広い芝生や草地	73 (24.6%)	165 (55.6%)	59 (19.9%)	112 (38.4%)	130 (44.5%)	50 (17.1%)	** $\chi^2=13.547$
オ 花だんなどのある整備された場所	22 (7.4%)	143 (48.1%)	132 (44.4%)	9 (3.1%)	104 (35.6%)	179 (61.3%)	** $\chi^2=19.437$
カ 動物園	12 (4.0%)	209 (70.4%)	76 (25.6%)	8 (2.7%)	100 (34.2%)	184 (63.0%)	** $\chi^2=84.227$
キ 木や草の多い整備されていない場所	39 (13.1%)	108 (36.4%)	150 (50.3%)	149 (50.5%)	93 (31.5%)	53 (18.0%)	** $\chi^2=111.296$
ク 山林・森などスリルのあるところ	4 (1.3%)	58 (19.5%)	235 (79.1%)	86 (29.5%)	104 (35.6%)	102 (34.9%)	
ケ 川原・小川・田・小さな池など	18 (6.1%)	112 (37.7%)	167 (56.2%)	119 (40.8%)	116 (39.7%)	57 (19.5%)	** $\chi^2=128.402$
コ 海 岸	17 (5.8%)	179 (60.9%)	98 (33.3%)	39 (13.4%)	105 (36.0%)	148 (50.7%)	** $\chi^2=38.676$
サ 土手・がけ	7 (2.4%)	54 (18.2%)	235 (79.4%)	55 (18.8%)	117 (40.1%)	120 (41.1%)	** $\chi^2=98.196$
シ 牛・にわとり・など家畜のいるところ	27 (9.1%)	79 (26.7%)	190 (64.2%)	81 (27.6%)	105 (35.7%)	108 (36.7%)	** $\chi^2=53.690$
ス 建築・工事現場の近く	3 (1.0%)	29 (9.8%)	264 (89.2%)	4 (1.4%)	37 (12.7%)	251 (86.0%)	
セ 少数でゲームなどのできるちょっとしたあき地	66 (22.4%)	131 (44.6%)	97 (33.0%)	128 (43.8%)	112 (38.4%)	52 (17.8%)	** $\chi^2=34.574$

(** P<0.01)

が多いと答えているが、記入者の幼少のころと比べると、きょうだいと遊ぶ割合が増え、同年齢の友達と遊ぶ率、特に異年齢の友達と遊ぶことが減っている。

③ 自然と直接ふれ合う遊びや体験

現在の子供たちは、記入者の幼少のころと比べ、小石、貝がら、木の実・花などを集めたり、付近にある自然のものを取り入れてのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊び、木のぼりや草の上を転がったり、土手すべりをしたりす

表4 戸外で一緒に遊ぶ人

	現在の子供	記入者の幼少時
ア 一人	5(1.7%)	2(0.7%)
イ 親や大人	12(4.0%)	5(1.7%)
ウ きょうだい	96(32.2%)	49(16.4%)
エ 同年齢の友達	153(51.3%)	167(56.0%)
オ 異年齢の友達	31(10.4%)	69(23.2%)
無回答	1(0.3%)	6(2.0%)

ウ・エ・オの3項目で $\chi^2=29.945$ P<0.01

るなど自然物を使って身体を動かす遊び、凧を揚げたり、かざぐるまを回したりして工作物を使って遊ぶ遊びが減っている。〔表5〕

顕著な傾向とは言えないが、かぶと虫などの地中の虫を掘り出すことは現在の子供がやや多いようである。

表5 自然とふれ合う遊び

	現在の子供			記入者の幼少のころ			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 泥・土いじり, 砂遊び	236 (79.2%)	61 (20.5%)	1 (0.3%)	212 (72.1%)	77 (26.2%)	5 (1.7%)	
イ 水でっぼう・しゃぼん玉・色水作りなどの水遊び	120 (40.4%)	165 (55.6%)	12 (4.0%)	138 (46.6%)	148 (50.0%)	10 (3.4%)	
ウ カブト虫など地中の虫を掘り出す	50 (16.9%)	116 (39.2%)	130 (43.9%)	35 (11.8%)	101 (34.1%)	160 (54.1%)	
エ 小石, 貝がら, 木の実・花などを集める	95 (31.9%)	164 (55.0%)	39 (13.1%)	150 (51.0%)	124 (42.2%)	20 (6.8%)	** $\chi^2=23.720$
オ 付近にある自然のものを取り入れたのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊び (笹舟作りなど)	35 (11.8%)	143 (48.3%)	118 (39.9%)	163 (55.3%)	112 (38.0%)	20 (6.8%)	** $\chi^2=156.615$
カ 木のぼりや草の上を転がったり土手すべりをしたりするなど自然物を使って体を動かす遊び	37 (12.5%)	137 (46.4%)	121 (41.0%)	170 (57.6%)	97 (32.9%)	28 (9.5%)	** $\chi^2=149.860$
キ ありの行列など生き物の動きをじっと見る	70 (23.5%)	177 (59.4%)	51 (17.1%)	68 (23.2%)	181 (61.8%)	44 (15.0%)	
ク たこをあげたり, かざぐるまを回したりしてして工作物を使って遊ぶ	29 (9.8%)	172 (58.1%)	95 (32.1%)	90 (30.7%)	154 (52.6%)	49 (16.7%)	** $\chi^2=47.120$

(** P<0.01)

〔表6〕は野生の生き物を子供が自分でどのくらい捕まえているものか調べたものである。とんぼ, せみ, ちょう, かみきり, みみず, おたまじゃくし, かたつむり, くも, ふな, めだかなどを自分で捕まえることは明らかに記入者の幼少のころが多い。また, かえる, どじょう, すずめも記入者の幼少のころに比べ, 現在の子供たちは自分で捕まえることが減っていると思われる。一方現在の子供たちの方が記入者の幼少のころに比べて多いのは, だんご虫であるが, 他にかぶと虫, くわがたもよく捕まえているといえよう。

〔表7〕は自然とふれ合う様々な行動を挙げたものであるが, はだして庭や外を歩いたこと, 雨降りにかさもささずに外で遊んだこと, 川や池で石を投げたこと, 高いへいや崖を歩いたこと, 犬や猫を追い回したこと, 花壇や畑の中にはいって荒らしたこと, おとなの使う道具を持ち出して何か作ったこと, 自分でとってきた種や苗を植えたこと, きいちごなどの野生の木の实や野草を自分でとって食べたこと, また森や洞窟を探検したことなど, 記入者の幼少のころに比べて現在の子供たちは経験が少なくなっていると思われる。

現在の子供で記入者の幼少のころと比べて多いのは, すり傷やこぶをこしらえたことである。これまでみてきたように, 現在の子供たちは自然とのふれあいが減ってきている傾向がみられるが,

表6 野生の生き物を自分でつかまえる

	現 在 の 子 供			記入者の幼少のころ			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア とんぼ	51 (17.2%)	147 (49.5%)	99 (33.3%)	171 (57.8%)	109 (36.8%)	16 (5.4%)	** $\chi^2=131.041$
イ せみ	61 (20.5%)	124 (41.8%)	112 (37.7%)	150 (50.5%)	108 (36.4%)	39 (13.1%)	** $\chi^2=73.656$
ウ ばった	112 (37.6%)	129 (43.3%)	57 (19.1)	123 (41.4%)	133 (44.8%)	41 (13.8%)	
エ ちょう	77 (25.8%)	160 (53.7%)	61 (20.5%)	157 (52.9%)	122 (41.1%)	18 (6.1%)	** $\chi^2=56.525$
オ かぶと虫	76 (25.5%)	112 (37.6%)	110 (36.9%)	62 (20.9%)	99 (33.3%)	136 (45.8%)	
カ くわがた	75 (25.2%)	106 (35.6%)	117 (39.3%)	64 (21.5%)	103 (34.7%)	130 (43.8%)	
キ かみきり	16 (5.4%)	62 (20.8%)	218 (73.6%)	23 (7.8%)	88 (30.0%)	182 (62.1%)	* $\chi^2=8.835$
ク だんご虫	73 (24.7%)	101 (34.1%)	122 (41.2%)	17 (5.8%)	59 (20.2%)	216 (74.0%)	** $\chi^2=72.324$
ケ あり	98 (33.0%)	155 (52.2%)	44 (14.8%)	99 (33.6%)	142 (48.1%)	54 (18.3%)	
コ みみず	13 (4.4%)	53 (17.9%)	230 (77.7%)	18 (6.1%)	81 (27.6%)	194 (66.2%)	** $\chi^2=10.013$
サ いも虫	11 (3.7%)	48 (16.2%)	237 (80.1%)	16 (5.4%)	52 (17.7%)	226 (76.9%)	
シ 毛虫	4 (1.4%)	14 (4.7%)	278 (93.9%)	6 (2.0%)	23 (7.8%)	264 (90.1%)	
ス おたまじゃくし	40 (13.4%)	89 (29.9%)	169 (56.7%)	131 (44.4%)	130 (44.1%)	34 (11.5%)	** $\chi^2=145.285$
セ かえる	29 (9.7%)	79 (26.5%)	190 (63.8%)	33 (11.2%)	101 (34.2%)	161 (54.6%)	
ソ かに	69 (23.2%)	122 (41.1%)	106 (35.7%)	64 (21.8%)	142 (48.3%)	88 (29.9%)	
タ かたつむり	110 (36.9%)	148 (49.7%)	40 (13.4%)	141 (47.8%)	131 (44.4%)	23 (7.8%)	* $\chi^2=8.895$
チ くも	6 (2.0%)	41 (13.9%)	249 (84.1%)	16 (5.4%)	62 (21.1%)	216 (73.5%)	** $\chi^2=11.210$
ツ ヘビ	0 (0.0%)	1 (0.3%)	295 (99.7%)	3 (1.0%)	10 (3.4%)	281 (95.6%)	
テ とかげ	7 (2.4%)	23 (7.8%)	266 (89.9%)	5 (1.7%)	34 (11.6%)	254 (86.7%)	
ト ふな	5 (1.7%)	23 (7.8%)	268 (90.5%)	57 (19.4%)	97 (33.0%)	140 (47.6%)	** $\chi^2=129.210$
ナ めだか	15 (5.1%)	72 (24.2%)	210 (70.7%)	115 (39.1%)	117 (39.8%)	62 (21.1%)	** $\chi^2=167.844$
ニ どじょう	3 (1.0%)	9 (3.0%)	284 (95.9%)	35 (11.9%)	90 (30.6%)	169 (57.5%)	
ヌ はと	4 (1.4%)	7 (2.4%)	285 (96.3%)	7 (2.4%)	29 (9.9%)	257 (87.7%)	
ネ すずめ	2 (0.7%)	7 (2.4%)	287 (97.0%)	10 (3.4%)	68 (23.2%)	215 (73.4%)	

(* P<0.05 ** P<0.01)

表7 自然とふれ合う体験

	現 在 の 子 供			記入者の幼少のころ			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 骨を折ったこと	1 (0.3%)	9 (3.1%)	285 (96.6%)	4 (1.4%)	14 (4.8%)	276 (93.9%)	
イ 服を破ったり泥だらけで帰ったりしたこと	81 (27.3%)	150 (50.5%)	66 (22.2%)	70 (23.8%)	153 (52.0%)	71 (24.1%)	
ウ すり傷やこぶをこしらえたこと	125 (41.9%)	167 (56.0%)	6 (2.0%)	93 (31.4%)	180 (60.8%)	23 (7.8%)	** $\chi^2=15.444$
エ 虫にさされたりかぶれたりして帰ってきたこと	64 (21.5%)	164 (55.0%)	70 (23.5%)	72 (24.3%)	169 (57.1%)	55 (18.6%)	
オ はだして庭や外を歩いたこと	136 (45.6%)	144 (48.3%)	18 (6.0%)	169 (57.1%)	115 (38.9%)	12 (4.1%)	** $\chi^2=7.722$
カ 雨ふりにカサもささずに外で遊んだこと	41 (13.8%)	164 (55.0%)	93 (31.2%)	66 (22.4%)	171 (58.0%)	58 (19.7%)	** $\chi^2=14.232$
キ 水をかけあって遊んだこと	87 (29.2%)	181 (60.7%)	30 (10.1%)	86 (29.1%)	181 (61.1%)	29 (9.8%)	
ク 川や池で石を投げたこと	27 (9.1%)	153 (51.5%)	117 (39.4%)	102 (34.5%)	163 (55.1%)	31 (10.5%)	** $\chi^2=93.101$
ケ 高いへいや崖を歩いたこと	14 (4.7%)	74 (24.8%)	210 (70.5%)	42 (14.2%)	139 (47.0%)	115 (38.9%)	** $\chi^2=60.588$
コ 森や洞窟を探検したこと	1 (0.3%)	30 (10.1%)	266 (89.6%)	50 (16.9%)	127 (43.1%)	118 (40.0%)	
サ 犬や猫を追い回したこと	56 (18.8%)	153 (51.3%)	89 (29.9%)	83 (28.0%)	144 (48.6%)	69 (23.3%)	* $\chi^2=7.722$
シ 花壇や畑の中にはいって荒らしたこと	11 (3.7%)	72 (24.2%)	214 (72.1%)	27 (9.1%)	105 (35.5%)	164 (55.4%)	** $\chi^2=19.569$
ス 鳥の巣から卵をとったこと	0 (0.0%)	10 (3.4%)	287 (96.6%)	7 (2.4%)	53 (17.9%)	236 (79.7%)	
セ 大人の使う道具を持ち出して何か作ったこと	30 (10.1%)	132 (44.3%)	136 (45.6%)	41 (13.9%)	164 (55.4%)	91 (30.7%)	** $\chi^2=14.256$
ソ せみ、かえる、かに、魚など外から持ち帰った生き物を家で飼ったこと	67 (22.5%)	162 (54.4%)	69 (23.2%)	61 (20.6%)	160 (54.1%)	75 (25.3%)	
タ 自分でとってきた種や苗を植えたこと	30 (10.1%)	132 (44.3%)	136 (45.6%)	49 (16.6%)	173 (58.4%)	74 (25.0%)	** $\chi^2=29.106$
チ きいちごなど野生の木の実や野草を自分でとって食べたこと	19 (6.4%)	90 (30.3%)	188 (63.3%)	163 (55.1%)	102 (34.5%)	31 (10.5%)	** $\chi^2=227.119$

(* P<0.05 ** P<0.01)

このことによって現在の子供たちに心身の成長・発達に何らかの影響を与えていることが予想される。

④ 話題にのぼること

〔表8〕は子供が感動して知らせにきたり、質問したりして記入者と一緒に話をしたりすることの内容について質問した結果である。

虫・にわとり、犬・象など生き物・動物に関することが多い。それに次いで草花や木、種や芽な

ど植物に関すること，雲や雨・風・にじ・夕焼けなど，気象に関すること，月・星・太陽など天文に関することについては，8，9割の子供が，よく，あるいは時々話題にしているようである。それに対し，温泉や溶岩，火山灰など岩石に関すること，水の流れや浮力・光の反射・空気の揚力など物理現象に関

表8 感動して知らせにきたり，質問したり，自然に関して話題にのぼること

	現在の子供		
	◎よくある	○時々ある	△殆どない
ア 月・星・太陽など天文に関すること	89 (25.3%)	204 (58.0%)	59 (16.8%)
イ 雲や雨・風・にじ・夕やけなど気象に関すること	104 (29.5%)	208 (59.1%)	40 (11.4%)
ウ 草木や木，種や芽など植物に関すること	86 (24.5%)	225 (64.1%)	40 (11.4%)
エ 虫・にわとり・犬・象など生き物・動物に関すること	113 (37.8%)	203 (57.7%)	16 (4.5%)
オ 温泉や溶岩，火山灰など岩石に関すること	23 (6.6%)	92 (26.2%)	236 (67.2%)
カ 自動車や機械などに関すること	60 (17.1%)	165 (47.0%)	126 (35.9%)
キ 水の流れや浮力・光の反射・空気の揚力など物理現象に関すること	19 (5.4%)	116 (33.0%)	216 (61.5%)

すること，また自動車や機械などに関することは話題になりにくいようである。こうした偏りの理由としては，成人も当たり前のこととしてあまり話題にしない事柄であるためとも考えられる。

⑤ 生き物の飼育，植物の栽培

〔図5〕・〔図6〕は各家庭で子供の教育ということ意識して生き物を飼育したり，植物を栽培したりしたことがあるかどうかを質問したものである。生き物については8割弱，植物については9割弱の家庭で子供の教育を意識して飼育，栽培をしたことがあると答えている。また，子供がかわいがっていた生き物が死んでしまったという体験を半数弱の子供がもっている〔図7〕。しかし飼育した生き物についてみると，6割以上の家庭で飼育した生き物として回答しているのは金魚・熱帯魚などで，犬・猫を飼ったことのある家庭はほぼ3割であり，やぎなどの家畜類を飼ったことのある者は非常に少ない〔表9〕。一方植物の栽培については，卓上菜園，植木鉢，プランターな

図5 子供のために植物を栽培したことがあるか

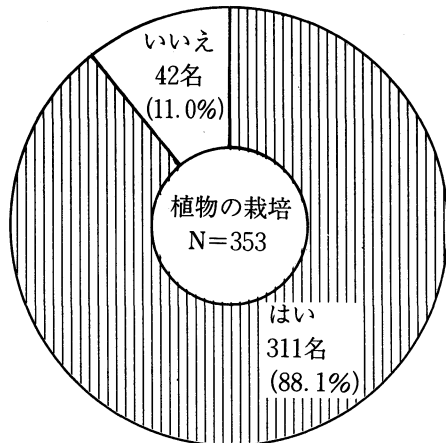


図6 子供のために生き物の飼育をしたことがあるか

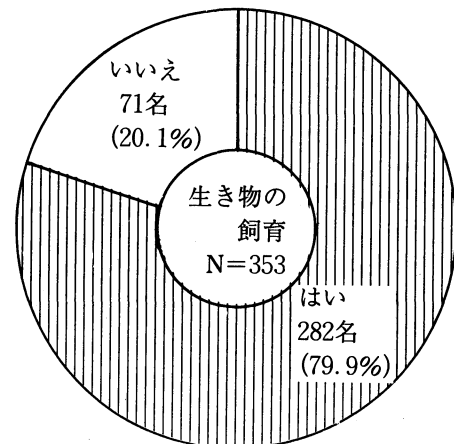


図7 かわいがっていた生き物の死を体験したことがあるか

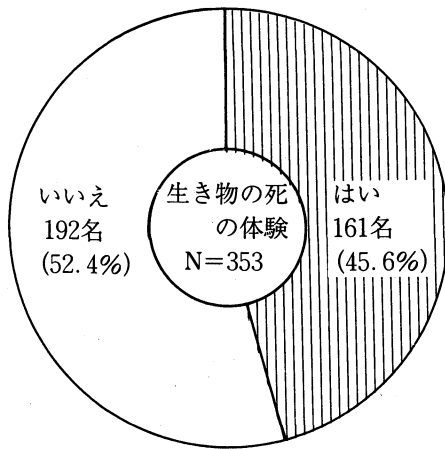


図8 自然とのふれ合いは十分と思うか

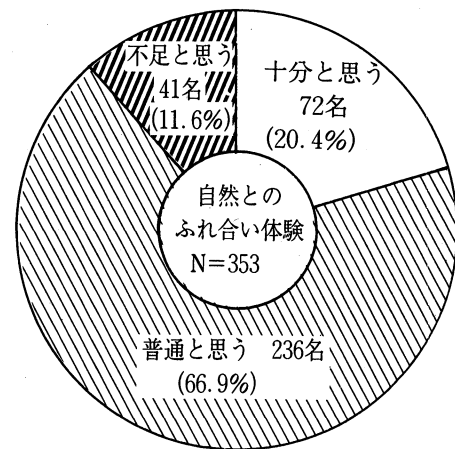


表9 どのような生き物を飼育したか

ア 金魚・熱帯魚など	224(63.5%)
イ 犬・猫など	80(22.7%)
ウ かなりあなど小鳥類	109(30.9%)
エ にわとり・しゃも等	51(14.4%)
オ やぎなど家畜類	12(3.4%)

表10 どのようなかたちで植物を栽培したか

ア 卓上菜園, 植木鉢, プランターなど	192(54.4%)
イ 庭の花壇, 草木類	184(52.1%)
ウ 菜園, 畑など	150(42.5%)
エ 市民農園など借地しての農作業	9(2.5%)

どといったものだけでなく、庭の花壇、草木、菜園、畑なども半数前後の者が作ったことがあると答えている。ごく少数ではあるが、市民農園など借地して農作業を営んでいる家庭もある〔表10〕。

⑥ 現在の子供たちの自然とのふれ合いについて、記入者はどのように考えているか、十分だと思う、不足していると思う、普通と思うという選択肢を挙げて回答を求めた。結果は〔図8〕のとおりで、はっきり不足していると思うと答えた記入者は1割である。現在の環境や事情のもとでは「普通」と答えたとも考えられるが、記入者の意識としてはこれまでの結果にみられるとおり自分たちの子供のころに比べて自然とのふれ合いが減っていることを感じてはいると思われる。しかしながら自然とのふれ合いの減少が子供の心身の成長・発達に影響を及ぼすものであるとは受け止めていないようである。

Ⅳ 調査の結果〔2〕

(2) 性差

① 遊びの場

〔表11〕・〔表12〕・〔表13〕にみられる遊びの場について、男児と女児との間に顕著な差は認められない。有意差がみられたものは自分の家の庭で遊ぶ(女児が多い)、アスレチック・ブランコな

表11 戸外遊びと室内遊びどちらかが好きか

	男 児	女 児
ア 室内遊び	14(7.8%)	17(9.9%)
イ 戸外遊び	91(50.8%)	71(41.5%)
ウ 同 じ	74(41.3%)	83(48.5%)

表12 戸外でいつも遊ぶ場所 (* $\chi^2=4.027$ p<0.05 df=1)

	男 児	女 児
ア 自分の家の庭	147(83.1%)	151(90.4%) *
イ 友達の家の庭	129(72.9%)	131(78.4%)
ウ 道 路	60(33.9%)	56(33.5%)
エ 神社やお寺	6(3.4%)	6(3.6%)
オ 田 畑	28(15.8%)	20(12.0%)
カ 川	7(4.0%)	6(3.6%)
キ 海	4(2.3%)	6(3.6%)
ク 山	1(0.6%)	2(1.2%)
ケ 整地された土地	97(54.8%)	88(52.7%)
コ 野原など	32(18.1%)	28(16.8%)

表13 戸外でよく遊ぶ場所，遊ばない場所 (*P<0.05 df=2)

	男 児			女 児			
	◎よくある	○時々ある	殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア アスレチック・ブランコ等のある公園	26 (14.6%)	122 (68.5%)	30 (16.9%)	45 (26.2%)	100 (58.1%)	27 (15.7%)	* $\chi^2=7.350$
イ ジェットコースター・テイクアップ等のある公園	1 (0.6%)	105 (59.3%)	71 (40.1%)	6 (3.5%)	95 (55.6%)	70 (40.9%)	
ウ 砂 場	102 (57.3%)	60 (33.7%)	16 (9.0%)	98 (57.3%)	60 (35.1%)	13 (7.6%)	
エ 広い芝生や草地	45 (25.3%)	94 (52.8%)	39 (21.9%)	36 (21.1%)	100 (58.5%)	35 (20.5%)	* $\chi^2=6.612$
オ 花壇などのある整備された場所	12 (6.7%)	86 (48.3%)	80 (44.9%)	10 (5.8%)	81 (47.4%)	80 (46.8%)	
ケ 動物園	6 (3.4%)	122 (68.5%)	50 (28.1%)	6 (3.5%)	120 (70.2%)	45 (26.3%)	
キ 草や木の多い整備されていない場所	19 (10.7%)	72 (40.4%)	87 (48.9%)	23 (13.5%)	55 (32.2%)	93 (54.4%)	
ク 山林・森などスリルのあるところ	1 (0.6%)	34 (19.1%)	143 (80.3%)	4 (2.3%)	35 (20.5%)	132 (77.2)	
ケ 川原・小川・田・小さな池など	13 (7.3%)	73 (41.0%)	92 (51.7%)	9 (5.3%)	63 (36.8%)	99 (57.9%)	
コ 海 岸	5 (2.8%)	116 (65.9%)	55 (31.3%)	14 (8.2%)	101 (59.4%)	55 (32.4%)	
サ 土手・がけ	6 (3.4%)	33 (18.6%)	138 (78.0%)	2 (1.2%)	33 (19.2%)	137 (79.7%)	
シ 牛・にわとりなどの家畜のいるところ	18 (10.2%)	60 (33.9%)	99 (55.9%)	16 (9.4%)	38 (22.2%)	117 (68.4%)	
ス 建築・工事現場の近く	2 (1.1%)	21 (11.9%)	154 (87.0%)	1 (0.6%)	11 (6.4%)	159 (93.0%)	
セ 小人数でゲームなどのできるちょっとした空き地	47 (26.7%)	79 (44.9%)	50 (28.4%)	33 (19.3%)	78 (45.6%)	60 (35.1%)	

どのある遊園地 (女兒がやや多い), 牛・にわとりなどの家畜のいるところ (男児が多い) である。

② 戸外で一緒に遊ぶ人

〔表14〕にみられるとおりあまり差はみられない。

男児のほうが女兒に比べ、いくらか異年齢の友達と遊ぶ率が高く、きょうだいと遊ぶ率が低い。

表14 戸外で一緒に遊ぶ人

	男 児	女 児
ア 一人で	4 (2.2%)	4 (2.4%)
イ 親や大人と	6 (3.4%)	6 (3.5%)
ウ きょうだいと	52 (29.1%)	56 (32.9%)
エ 同年齢の友達	95 (53.1%)	89 (52.4%)
オ 異年齢の友達	22 (12.3%)	15 (8.8%)

③ 自然と直接ふれ合う遊びや体験

〔表15〕のとおり、かぶと虫など地中の虫を掘り出す遊びは明らかに男児に多く、小石、貝がら、木の実・花などを集める、付近にある自然のものを取

表15 自然とふれ合う遊び

	男 児			女 児			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 泥・土いじり, 砂遊び	140 (78.2%)	37 (20.7%)	2 (1.1%)	136 (79.1%)	35 (20.3%)	1 (0.6%)	
イ 水でっぽう・しゃぼん玉・色水作りなどの水遊び	61 (34.3%)	104 (58.4%)	13 (7.3%)	71 (41.3%)	99 (57.6%)	2 (1.2%)	
ウ カブト虫など地中の虫を掘り出す	50 (28.1%)	71 (39.9%)	57 (32.0%)	8 (4.7%)	59 (34.5%)	104 (60.8%)	** $x^2=45.021$
エ 小石, 貝がら, 木の実・花などを集める	35 (19.6%)	112 (62.6%)	32 (17.9%)	76 (44.2%)	83 (48.3%)	13 (7.6%)	** $x^2=27.378$
オ 付近にある自然のものを取り入れてのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊び(笹舟作りなど)	10 (5.6%)	88 (49.4%)	80 (44.9%)	28 (16.4%)	81 (47.4%)	62 (36.3%)	** $x^2=10.819$
カ 木のぼりや草の上を転がったり土手すべりをしたりするなど自然物を使って体を動かす遊び	25 (14.1%)	86 (48.6%)	66 (37.3%)	17 (9.9%)	74 (43.3%)	80 (46.8%)	
キ ありの行列など生き物の動きをじっと見る	41 (22.9%)	108 (60.3%)	30 (16.8%)	37 (21.5%)	101 (58.7%)	34 (19.8%)	
ク たこをあげたり, かざぐるまを回したりして工作物を使って遊ぶ	20 (11.2%)	106 (59.6%)	52 (29.2%)	16 (9.4%)	89 (52.0%)	66 (38.6%)	

(** p<0.01 df=2)

り入れてのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊びは、女兒のほうが多い。

野生の生き物を自分で捕まえることについては〔表16〕に示したとおりであるが、殆どの生き物について男児のほうが自分で捕まえることが多い。有意差のみられた物は、とんぼ、せみ、ばった、かぶと虫、くわがた、みみず、おたまじゃくし、かえる、かにである。

〔表17〕に示した自然とのふれ合い体験についても、全体的に男児のほうが多い傾向がうかがえる。男児のほうが多く有意差のみられたものは、服を破ったり、泥だらけで帰ったりしたこと、雨降りにかさもささずに外で遊んだこと、川や池で石を投げたこと、犬や猫を追い回したこと、おとなの使う道具を持ち出して何か作ったこと、せみ、かえる、かに、魚、などの外から持ち帰った生き物を家で飼ったことである。

女兒のほうが多く有意差のみられたものは、きいちごなど野生の木の実や野草を自分でとって食

表16 野生の生き物を自分で捕まえる

	男 児			女 児			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア とんぼ	43 (24.2%)	85 (47.8%)	50 (28.1%)	16 (9.3%)	83 (48.3%)	73 (42.4%)	** $x^2=16.450$
イ せみ	49 (27.5%)	79 (44.4%)	50 (28.1%)	24 (14.0%)	62 (36.0%)	86 (50.0%)	** $x^2=20.300$
ウ ばった	90 (50.3%)	71 (39.7%)	18 (10.1%)	44 (25.6%)	80 (46.5%)	48 (27.9%)	** $x^2=29.835$
エ ちょう	51 (28.5%)	90 (50.3%)	38 (21.2%)	36 (20.9%)	100 (58.1%)	36 (20.9%)	
オ かぶと虫	71 (39.7%)	66 (36.9%)	42 (23.5%)	24 (14.0%)	61 (35.5%)	87 (50.6%)	** $x^2=38.610$
カ くわがた	69 (38.5%)	69 (38.5%)	41 (22.9%)	23 (13.4%)	52 (30.2%)	97 (56.4%)	** $x^2=47.736$
キ かみきり	16 (9.0%)	41 (23.2%)	120 (67.8%)	3 (1.7%)	30 (17.4%)	139 (80.8%)	
ク だんご虫	43 (24.3%)	54 (30.5%)	80 (45.2%)	40 (23.4%)	57 (33.3%)	74 (43.3%)	
ケ あり	62 (34.6%)	85 (47.5%)	32 (17.9%)	52 (30.4%)	94 (55.0%)	25 (14.6%)	
コ みみず	11 (6.1%)	41 (23.2%)	125 (70.6%)	5 (2.9%)	18 (10.5%)	149 (86.6%)	** $x^2=13.262$
サ いも虫	9 (5.1%)	32 (18.1%)	136 (76.8%)	3 (1.7%)	21 (12.2%)	148 (86.0%)	
シ 毛虫	2 (1.1%)	8 (4.5%)	167 (94.4%)	2 (1.2%)	6 (3.5%)	164 (95.3%)	
ス おたまじゃくし	31 (17.3%)	55 (30.7%)	93 (52.0%)	14 (8.1%)	51 (29.7%)	107 (62.2%)	* $x^2=7.371$
セ かえる	28 (15.6%)	51 (28.5%)	100 (55.9%)	10 (5.8%)	40 (23.3%)	122 (70.9%)	** $x^2=11.934$
ソ かに	60 (33.7%)	71 (39.9%)	47 (26.4%)	26 (15.1%)	69 (40.1%)	77 (44.8%)	** $x^2=20.650$
タ かたつむり	71 (39.7%)	83 (46.4%)	25 (14.0%)	59 (34.3%)	91 (52.9%)	22 (12.8%)	
チ くも	7 (3.9%)	28 (15.8%)	142 (80.2%)	0 (0.0%)	19 (11.0%)	153 (89.0%)	
ツ ヘビ	0 (0.0%)	1 (0.6%)	176 (99.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	172 (100.0%)	
テ とかげ	10 (5.6%)	18 (10.2%)	149 (84.2%)	0 (0.0%)	12 (7.0%)	160 (93.0%)	
ト ふな	6 (3.4%)	19 (10.7%)	152 (85.9%)	1 (0.6%)	12 (7.0%)	159 (92.4%)	
ナ めだか	14 (7.9%)	43 (24.2%)	121 (68.0%)	6 (3.5%)	41 (23.8%)	125 (72.7%)	
ニ どじょう	2 (1.1%)	6 (3.4%)	169 (95.5%)	1 (0.6%)	8 (4.7%)	163 (94.8%)	
ヌ はと	2 (1.1%)	4 (2.3%)	171 (96.6%)	3 (1.7%)	5 (2.9%)	164 (95.3%)	
ネ すずめ	2 (1.1%)	5 (2.8%)	170 (96.0%)	2 (1.2%)	4 (2.3%)	166 (96.5%)	

(* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ $df=2$)

表17 自然とふれ合う体験

	男 児			女 児			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 骨を折ったことがある	0 (0.0%)	9 (5.0%)	169 (94.9%)	1 (0.6%)	3 (1.8%)	116 (97.6%)	
イ 服を破ったり泥だらけで帰ったりしたこと	76 (42.7%)	76 (42.7%)	26 (14.6%)	23 (13.4%)	97 (56.4%)	52 (30.2%)	** $\chi^2=39.900$
ウ すり傷やこぶをこしらえたこと	89 (49.7%)	86 (48.0%)	4 (2.2%)	52 (30.2%)	116 (67.4%)	4 (2.3%)	
エ 虫に刺されたりかぶれたりして帰ってきたこと	42 (23.5%)	93 (52.5%)	44 (24.6%)	32 (18.6%)	101 (58.7%)	39 (22.7%)	
オ はだして庭や外を歩いたこと	93 (52.0%)	79 (44.1%)	7 (3.9%)	70 (40.7%)	87 (50.6%)	15 (8.7%)	
カ 雨降りにカサもささずに外で遊んだこと	33 (18.4%)	101 (56.4%)	45 (25.1%)	19 (11.0%)	91 (52.9%)	62 (36.0%)	* $\chi^2=7.020$
キ 水をかけあって遊んだこと	63 (35.2%)	103 (57.5%)	13 (7.3%)	46 (26.7%)	103 (59.9%)	23 (13.4%)	
ク 川や池で石を投げたこと	26 (14.6%)	90 (50.6%)	62 (34.8%)	7 (4.1%)	90 (52.3%)	75 (43.6%)	** $\chi^2=12.600$
ケ 高いへいやがけを歩いたこと	14 (7.8%)	42 (23.5%)	123 (68.7%)	2 (1.2%)	44 (25.6%)	126 (73.3%)	
コ 森や洞窟を探検したこと	1 (0.6%)	15 (8.4%)	162 (91.0%)	1 (0.6%)	18 (10.5%)	153 (89.0%)	
サ 犬や猫などを追い回したこと	44 (24.6%)	99 (55.3%)	36 (20.1%)	27 (15.7%)	82 (47.7%)	63 (36.6%)	** $\chi^2=12.987$
シ 花壇や畑の中にはいって荒らしたこと	11 (6.2%)	54 (30.3%)	113 (63.5%)	4 (2.3%)	39 (22.7%)	129 (75.0%)	
ス 鳥の巣から卵を取ったこと	1 (0.6%)	8 (4.5%)	169 (94.9%)	1 (0.6%)	4 (2.3%)	167 (97.1%)	
セ 大人の使う道具を持ち出して何か作ったこと	25 (14.0%)	86 (48.0%)	68 (38.0%)	17 (9.9%)	64 (37.2%)	91 (52.9%)	* $\chi^2=7.722$
ソ せみ、かえる、かに、魚など外から持ち帰った生き物を家で飼ったこと	56 (31.3%)	93 (52.0%)	30 (16.8%)	21 (12.2%)	93 (54.1%)	58 (33.7%)	** $\chi^2=24.570$
タ 自分でとってきた種や苗を植えたこと	15 (8.4%)	70 (39.1%)	94 (52.5%)	19 (11.0%)	83 (48.3%)	70 (40.7%)	
チ きいちごなど野生の木の実や野草を自分でとって食べたこと	10 (5.6%)	40 (22.5%)	127 (71.3%)	13 (7.6%)	66 (38.4%)	93 (54.1%)	** $\chi^2=12.215$

(* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ $df = 2$)

べたことである。またわずかではあるが自分でとってきた種や苗を植えたことも女児のほうが多い傾向がみられる。

④ 話題にのぼること [表18]

自動車や機械などに関すること, 虫・にわとり・犬・象などの生き物・動物に関することは明らかに男児のほうがよく話題にしている。ほかに水の流れや浮力・光の反射・空気の揚力など物理現象に関することを会話にとりあげられることが男児のほうに多い傾向がみられる。

表18 感動して知らせにきたり質問したり自然に関して話題になること

	男 児			女 児		
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない
ア 月・星・太陽など天文に関したこと	43 (24.0%)	103 (57.5%)	33 (18.4%)	45 (26.3%)	100 (58.5%)	26 (15.2%)
イ 雲や雨・風・にじ・夕やけなど気象に関したこと	54 (30.2%)	103 (57.5%)	22 (12.3%)	50 (29.2%)	103 (60.2%)	18 (10.5%)
ウ 草花や木, 種や芽など植物に関したこと	40 (22.3%)	112 (62.6%)	27 (15.1%)	46 (27.1%)	112 (65.9%)	12 (7.1%)
エ 虫・にわとり・犬・象など生き物・動物に関したこと	81 (45.3%)	92 (51.4%)	6 (3.4%)	51 (29.8%)	111 (64.9%)	9 (5.3%)
オ 温泉や溶岩, 火山灰など岩石に関したこと	14 (7.8%)	49 (27.4%)	116 (64.8%)	9 (5.3%)	42 (24.7%)	119 (70.0%)
カ 自動車や機械などに関したこと	52 (29.1%)	98 (54.7%)	29 (16.2%)	7 (4.1%)	66 (38.8%)	97 (57.1%)
キ 水の流れや浮力・光りの反射・空気の揚力など物理現象に関したこと	13 (7.3%)	62 (34.6%)	104 (58.1%)	6 (3.5%)	53 (31.2%)	111 (65.3%)

* $\chi^2=9.100$

** $\chi^2=76.780$

(* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ $df=2$)

⑤ 生き物の飼育, 植物の栽培 [表19]・[表20]・[表21]

家庭での生き物の飼育, 植物の栽培については, 生き物を飼育したことのある家庭は男児の家庭のほうが比率が高いが顕著な男女差はみられない。有意差のみられたのは, にわとり, しゃもなどの飼育で男児の家庭にやや多かった。

表19 子供のために生き物の飼育をしたことがあるか

	男 児	女 児
ア あ る	150 (83.8%)	130 (75.6%)
イ な い	29 (16.2%)	42 (24.4%)

表20 どのような生き物を飼育したか

	男 児	女 児
ア 金魚, 熱帯魚など	115 (64.2%)	107 (62.2%)
イ 犬・猫など	45 (25.1%)	34 (19.8%)
ウ かなりあなど小鳥類	62 (34.6%)	46 (26.7%)
エ にわとり・しゃも等	34 (19.0%)	16 (9.3%)
オ やぎなど家畜類	5 (2.8%)	7 (4.1%)

**

(** $\chi^2=6.745$ $P < 0.01$ $df=1$)

表21 子供のために植物の栽培をしたことがあるか

	男 児	女 児
ア あ る	155 (87.1%)	154 (90.6%)
イ な い	23 (12.9%)	16 (9.4%)

V 調査の結果〔3〕

(3) 年齢による傾向

① 遊びの場

〔表22〕に示したとおり、有意差は認められなかったが、年齢とともに戸外遊びを好む者がやや増えている。

いつも遊ぶ場所についても年齢に伴うはっきりした傾向を見出すことはできない。道路で遊ぶことは年齢とともに減る傾向がみられる〔表23〕。

表22 戸外遊びと室内遊びどちらが好きか

	4 歳	5 歳	6 歳
ア 室内遊び	5(7.2%)	17(10.1%)	9(8.0%)
イ 戸外遊び	30(43.5%)	75(44.4%)	57(50.4%)
ウ 同じ	34(49.3%)	77(45.6%)	47(41.6%)

個別の遊び場所についてみると〔表24〕、砂場での遊びが6歳で増えている(有意差あり)。年齢とともにわずかながら増加する傾向の見出せるものとして、草や木の多い整備されていない場所、川原・小川・田・小さな池などが挙げられる。

表23 戸外でいつも遊ぶ場所

	4 歳	5 歳	6 歳
ア 自分の家の庭	55(79.7%)	150(88.8%)	94(82.5%)
イ 友達の家の庭	46(66.7%)	134(79.3%)	81(71.1%)
ウ 道路	26(37.7%)	61(36.1%)	30(26.3%)
エ 神社やお寺	4(5.8%)	5(3.0%)	3(2.6%)
オ 田 畑	9(13.0%)	24(14.2%)	15(13.2%)
カ 川	2(2.9%)	3(1.8%)	8(7.0%)
キ 海	4(5.8%)	1(0.6%)	5(4.4%)
ク 山	1(1.4%)	2(1.2%)	0(0.0%)
ケ 整地された土地	40(58.0%)	82(48.5%)	63(55.3%)
コ 野原など	10(14.5%)	28(16.6%)	22(19.3%)

② 戸外で一緒に遊ぶ人

4歳と5・6歳で比べると年齢とともにきょうだいと遊ぶことが少なくなり、同年齢との遊びが増えている〔表25〕。

③ 自然とのふれ合う遊びや体験〔表26〕・〔表27〕・〔表28〕

有意差のみられたのは、5歳と6歳の間で、凧を揚げたり、かざぐるまを回したりして工作物を使って遊ぶ、付近にある自然のものを取り入れてのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊び、木のぼりや草の上を転がったり土手すべりをしたりするなど自然物を使って身体を動かす遊びで、6歳になると増えている。またかぶと虫など地中の虫を掘り出す遊びも年齢とともに増える傾向がみられる。泥・土いじり、砂遊びは年齢に拘わらず幼児に好まれる遊びといえよう。

自分で捕まえる野生の生き物としては、4歳と5歳の間で有意差のみられたものは、せみ、かに、の二つである。5歳と6歳の間で有意差のみられたものは、とんぼ、かぶと虫、くわがた、だんご虫、おたまじゃくし、かえる、かに、めだかである。一般に子供たちが楽しみでとるような生き物は年齢の増加とともに自分で捕まえることもほぼ増えているようである。

表24 戸外でよく遊ぶ場所，遊ばない場所

	4 歳			5 歳			6 歳		
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	殆どない
アスレチック・ブランコ等のある公園	16 (23.2%)	44 (63.8%)	9 (13.0%)	30 (17.8%)	110 (65.1%)	29 (17.2%)	25 (22.1%)	69 (61.1%)	19 (16.8%)
ジェットコースター・ティーカップ等のある公園	0 (0.0%)	44 (63.8%)	25 (36.2%)	5 (3.0%)	97 (57.7%)	66 (39.3%)	2 (1.8%)	59 (52.7%)	51 (45.5%)
砂 場	46 (66.7%)	21 (30.4%)	2 (2.9%)	83 (49.1%)	66 (39.1%)	20 (11.8%)	72 (64.3%)	33 (29.5%)	7 (6.3%)*
広い芝生や草地	15 (21.7%)	37 (53.6%)	17 (24.6%)	42 (25.0%)	96 (57.1%)	30 (17.9%)	25 (22.1%)	61 (54.0%)	27 (23.9%)
花壇などのある整備された場所	3 (4.3%)	39 (56.5%)	27 (39.1%)	10 (5.9%)	77 (45.6%)	82 (48.5%)	9 (8.0%)	51 (45.5%)	52 (46.4%)
動物園	2 (2.9%)	51 (73.9%)	16 (23.2%)	6 (3.6%)	115 (68.0%)	48 (28.4%)	4 (3.6%)	76 (67.9%)	32 (28.6%)
草や木の多い整備されていない場所	8 (11.6%)	21 (30.4%)	40 (58.0%)	19 (11.2%)	63 (37.3%)	87 (51.5%)	15 (13.4%)	43 (38.4%)	54 (48.2%)
山林・森などスリルのあるところ	0 (0.0%)	15 (21.7%)	54 (78.3%)	3 (1.8%)	32 (19.0%)	133 (79.2%)	2 (1.8%)	22 (19.5%)	89 (78.8%)
川原・小川・田・小さな池など	3 (4.3%)	22 (31.9%)	44 (63.8%)	11 (6.5%)	66 (39.3%)	91 (54.2%)	8 (7.1%)	48 (42.5%)	57 (50.4%)
海 岸	4 (5.8%)	45 (65.2%)	20 (29.0%)	10 (6.0%)	104 (61.9%)	54 (32.1%)	5 (4.5%)	68 (61.8%)	37 (33.6%)
土手・がけ	2 (2.9%)	12 (17.4%)	55 (79.7%)	3 (1.8%)	24 (14.3%)	141 (83.9%)	3 (2.7%)	30 (26.5%)	80 (70.8%)
牛・にわとりなどの家畜のいるところ	6 (8.7%)	23 (33.3%)	40 (58.0%)	15 (8.9%)	46 (27.4%)	107 (63.7%)	13 (11.6%)	29 (25.9%)	70 (62.5%)
建築・工事現場の近く	0 (0.0%)	4 (5.8%)	65 (94.2%)	0 (0.0%)	15 (8.9%)	153 (91.1%)	3 (2.7%)	13 (11.6%)	96 (85.7%)
小人数でゲームなどのできるちょっとした空き地	14 (20.6%)	27 (39.7%)	27 (39.7%)	38 (22.8%)	81 (48.5%)	48 (28.7%)	29 (25.7%)	49 (43.4%)	35 (31.0%)

(* $\chi^2=6.744$ $p<0.05$ $df=2$, 4歳と5歳の間)

表25 戸外で一緒に遊ぶ人

	一人で遊ぶ	親や大人と遊ぶ	兄弟姉妹と遊ぶ	同年齢の友達	異年齢の友達
4 歳	2(2.9%)	6(8.7%)	25(36.2%)	28(40.6%)	7(10.1%)
5 歳	4(2.4%)	4(2.4%)	49(29.0%)	93(55.0%)	19(11.2%)
6 歳	2(1.8%)	2(1.8%)	34(29.8%)	64(56.1%)	11(9.6%)

表26 自然とふれ合う遊び

	4 歳			5 歳			6 歳			
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 泥・土いじり, 砂遊び	55 (79.7%)	14 (20.3%)	0 (0.0%)	129 (76.3%)	38 (22.5%)	2 (1.2%)	93 (81.6%)	20 (17.5%)	1 (0.9%)	
イ 水でぼう・しゃぼん玉・色水作り などの水遊び	21 (30.4%)	44 (63.8%)	4 (5.8%)	59 (35.1%)	106 (63.1%)	3 (1.8%)	53 (46.5%)	53 (46.5%)	8 (7.0%)	
ウ カブト虫など地中の虫を掘り出す	8 (11.6%)	20 (29.0%)	41 (59.4%)	26 (15.5%)	68 (40.5%)	74 (44.0%)	24 (21.2%)	42 (37.2%)	47 (41.6%)	
エ 小石・貝がら, 木の実・花などを集める	18 (26.1%)	41 (59.4%)	10 (14.5%)	55 (32.5%)	95 (56.2%)	19 (11.2%)	38 (33.3%)	60 (52.6%)	16 (14.0%)	
オ 付近にある自然のものを取り入れたの ごっこ遊びや自然のものを利用した 伝承遊び(笹舟作りなど)	8 (11.8%)	30 (44.1%)	30 (44.1%)	13 (7.7%)	78 (46.4%)	77 (45.8%)	17 (14.9%)	62 (54.4%)	35 (30.7%)	* (5歳-6歳) $\chi^2=8.460$
カ 木のぼりや草の上を転がったり土 手すべりをしたりするなど自然物 を使って体を動かす遊び	8 (11.8%)	31 (45.6%)	29 (42.6%)	20 (12.0%)	67 (40.1%)	80 (47.9%)	14 (12.3%)	62 (54.4%)	38 (33.3%)	* (5歳-6歳) $\chi^2=6.182$
キ ありの行列など生き物の動きを じっと見る	19 (27.5%)	37 (53.6%)	13 (18.8%)	38 (22.5%)	102 (60.4%)	29 (17.2%)	21 (18.4%)	71 (62.3%)	22 (19.3%)	
オ たこをあげたり, かざぐるまを回 したりして工作物を使って遊ぶ	9 (13.2%)	33 (48.5%)	26 (38.2%)	15 (8.9%)	86 (51.2%)	67 (39.9%)	12 (10.5%)	77 (67.5%)	25 (21.9%)	** (5歳-6歳) $\chi^2=10.152$

(* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ $df=2$)

自然と関わりあう行動としては、4歳と5歳の間では、犬や猫を追い回したことに有意差がみられた。5歳と6歳の間では高いへいや崖を歩いたこと、犬や猫を追い回したことに有意差がみられた。大人の使う道具を持ち出して何かを作ったこと、せみ、かえる、かに、魚など外から持ち帰った生き物を家で飼ったこと、自分でとってきた種や苗を植えたことは年齢とともに増える傾向が見られる。

④ 話題にのぼること

〔表29〕にみられるとおり、5歳と6歳の間で、雲や雨・風・にじ・夕焼けなど気象に関すること、温泉や溶岩、火山ばいなど岩石に関すること、水の流れや浮力・光の反射・空気の揚力などの物理現象に関しするとについては有意差がみられた。

⑤ 生き物の飼育, 植物の栽培〔表30〕・〔表31〕

生き物の飼育の体験は年齢とともに増加している。またかわいがっていた動物の死を体験する者も増えている〔表32〕(有意差はみられなかった)。

一般に年齢の増加に伴う行動範囲の広がりとは平行して自然とのふれ合いも増えているものと思われる。

表27 野生の生き物を自分で捕える

	4 歳			5 歳			6 歳			有 意 差	
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	4—5歳	5—6歳
ア とんぼ	6 (8.7%)	29 (42.0%)	34 (49.3%)	28 (16.6%)	76 (45.0%)	65 (38.5%)	25 (22.1%)	64 (56.6%)	24 (21.2%)		** $\chi^2=9.306$
イ せみ	7 (10.1%)	24 (34.8%)	38 (55.1%)	38 (22.5%)	65 (38.5%)	66 (39.1%)	28 (24.8%)	53 (46.9%)	32 (28.3%)	*	$\chi^2=7.140$
ウ ばった	21 (30.4%)	32 (46.4%)	16 (23.2%)	65 (38.5%)	67 (39.6%)	37 (21.9%)	48 (42.1%)	52 (45.6%)	14 (12.3%)		
エ ちょう	11 (15.9%)	41 (59.4%)	17 (24.6%)	44 (26.0%)	85 (50.3%)	40 (23.7%)	32 (28.1%)	64 (56.1%)	18 (15.8%)		
オ かぶと虫	14 (20.3%)	21 (30.4%)	34 (49.3%)	48 (28.4%)	55 (32.5%)	66 (39.1%)	34 (29.8%)	51 (44.7%)	29 (25.4%)		* $\chi^2=6.509$
カ くわがた	13 (18.8%)	24 (34.8%)	32 (46.4%)	45 (26.6%)	50 (29.6%)	74 (43.8%)	35 (30.7%)	47 (41.2%)	32 (28.1%)		* $\chi^2=7.924$
キ かみきり	6 (8.8%)	11 (16.2%)	51 (75.0%)	9 (5.3%)	36 (21.3%)	124 (73.4%)	4 (3.5%)	24 (21.2%)	85 (75.2%)		
ク だんご虫	15 (22.4%)	18 (26.9%)	34 (50.7%)	50 (29.6%)	48 (28.4%)	71 (42.0%)	18 (15.9%)	45 (39.8%)	50 (44.2%)		* $\chi^2=8.460$
ケ あり	22 (31.9%)	37 (53.6%)	10 (14.5%)	57 (33.7%)	85 (50.3%)	27 (16.0%)	35 (31.0%)	57 (50.4%)	21 (18.6%)		
コ みみず	4 (5.8%)	7 (10.1%)	58 (84.1%)	6 (3.6%)	26 (15.5%)	136 (81.0%)	6 (5.3%)	26 (23.0%)	81 (71.7%)		
サ いも虫	2 (2.9%)	7 (10.1%)	60 (87.0%)	7 (4.2%)	30 (17.9%)	131 (78.0%)	3 (2.6%)	16 (14.2%)	94 (83.2%)		
シ 毛虫	0 (0.0%)	1 (1.4%)	68 (98.6%)	3 (1.8%)	8 (4.8%)	157 (93.5%)	1 (0.9%)	5 (4.4%)	107 (94.7%)		
ス おたまじゃくし	7 (10.1%)	12 (17.4%)	50 (72.5%)	19 (11.2%)	44 (26.0%)	106 (62.7%)	20 (17.5%)	50 (43.9%)	44 (38.6%)		** $\chi^2=15.848$
セ かえる	8 (11.6%)	12 (17.4%)	49 (71.0%)	17 (10.1%)	37 (21.9%)	115 (68.0%)	13 (11.4%)	42 (36.8%)	59 (51.8%)		* $\chi^2=8.490$
ソ かに	10 (14.5%)	35 (50.7%)	24 (34.8%)	44 (26.0%)	54 (32.0%)	71 (42.0%)	33 (29.2%)	51 (45.1%)	29 (25.7%)	*	$\chi^2=8.092$
タ かたつむり	27 (39.1%)	32 (46.4%)	10 (14.5%)	61 (36.1%)	84 (49.7%)	24 (14.2%)	42 (36.8%)	59 (51.8%)	13 (11.4%)		
チ くも	2 (2.9%)	5 (7.2%)	62 (89.9%)	3 (1.8%)	28 (16.7%)	137 (81.5%)	2 (1.8%)	14 (12.4%)	97 (85.8%)		
ツ ヘビ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	69 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	168 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	112 (99.1%)		
テ とかげ	2 (2.9%)	5 (7.2%)	62 (89.9%)	4 (2.4%)	8 (4.8%)	156 (92.9%)	4 (3.5%)	17 (15.0%)	92 (81.4%)		
ト ふな	1 (1.4%)	4 (5.8%)	64 (92.8%)	1 (0.6%)	10 (6.0%)	157 (93.5%)	5 (4.4%)	17 (15.0%)	91 (80.5%)		
ナ めだか	3 (4.3%)	16 (23.2%)	50 (72.5%)	10 (5.9%)	32 (19.0%)	126 (75.0%)	7 (6.1%)	37 (32.5%)	70 (61.4%)		* $\chi^2=6.486$
ニ どじょう	1 (1.4%)	2 (2.9%)	66 (95.7%)	1 (0.6%)	5 (3.0%)	162 (96.4%)	1 (0.9%)	7 (6.2%)	105 (92.9%)		
ヌ はと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	69 (100.0%)	2 (1.2%)	4 (2.4%)	162 (96.4%)	3 (2.7%)	5 (4.4%)	105 (92.9%)		
ネ すずめ	0 (0.0%)	2 (2.9%)	67 (97.1%)	1 (0.6%)	3 (1.8%)	164 (97.6%)	3 (2.7%)	4 (3.5%)	106 (93.8%)		

(* P < 0.05 ** P < 0.01 df = 2)

表28 自然とふれあう体験

	4 歳			5 歳			6 歳			有 意 差	
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	4-5歳	5-6歳
ア 骨を折ったこと	0 (0.0%)	1 (1.4%)	67 (98.5%)	1 (0.6%)	5 (3.0%)	162 (96.4%)	0 (0.0%)	6 (5.3%)	107 (94.7%)		
イ 服を破ったり泥だらけで帰ったりしたこと	21 (30.4%)	30 (43.5%)	18 (26.1%)	43 (25.6%)	89 (53.0%)	36 (21.4%)	35 (30.7%)	55 (48.2%)	24 (21.1%)		
ウ すり傷やこぶをこしらえたこと	24 (34.8%)	44 (63.8%)	1 (1.4%)	67 (39.6%)	99 (58.6%)	3 (1.8%)	50 (43.9%)	60 (52.6%)	4 (3.5%)		
エ 虫に刺されたりかぶれたりして帰ってきたこと	17 (24.6%)	36 (52.2%)	16 (23.2%)	33 (19.5%)	97 (57.4%)	39 (23.1%)	24 (21.1%)	62 (54.4%)	28 (24.6%)		
オ はだして庭や外を歩いたこと	31 (44.9%)	35 (50.7%)	3 (4.3%)	82 (48.5%)	75 (44.4%)	12 (7.1%)	50 (43.9%)	57 (50.0%)	7 (6.1%)		
カ 雨降りにカサもささずに外で遊んだこと	11 (15.9%)	34 (49.3%)	24 (34.8%)	25 (14.8%)	96 (56.8%)	48 (28.4%)	16 (14.0%)	63 (55.3%)	35 (30.7%)		
キ 水をかけあって遊んだこと	22 (31.9%)	37 (53.6%)	10 (14.5%)	49 (29.0%)	106 (62.7%)	14 (8.3%)	38 (33.3%)	64 (56.1%)	12 (10.5%)		
ク 川や池で石を投げたこと	4 (5.8%)	36 (52.2%)	29 (42.0%)	17 (10.1%)	79 (47.0%)	72 (42.9%)	12 (10.5%)	65 (57.0%)	37 (32.5%)		
ケ 高いへいやがけを歩いたこと	1 (1.4%)	16 (23.2%)	52 (75.4%)	7 (4.1%)	32 (18.9%)	130 (76.9%)	8 (7.0%)	38 (33.3%)	68 (59.6%)		** $\chi^2=9.622$
コ 森や洞くつを探検したこと	0 (0.0%)	6 (8.7%)	63 (91.3%)	2 (1.2%)	14 (8.3%)	152 (90.5%)	0 (0.0%)	13 (11.4%)	101 (88.6%)		
サ 犬や猫などを追い回したこと	9 (13.0%)	43 (62.3%)	17 (24.6%)	41 (24.3%)	71 (42.0%)	57 (33.7%)	21 (18.4%)	68 (59.6%)	25 (21.9%)	* $\chi^2=8.568$	* $\chi^2=8.490$
シ 花壇や畑の中にはいつて荒らしたこと	6 (8.7%)	21 (30.4%)	42 (60.9%)	6 (3.6%)	48 (28.6%)	114 (67.9%)	3 (2.6%)	24 (21.1%)	87 (76.3%)		
ス 鳥の巣から卵を取ったこと	0 (0.0%)	3 (4.3%)	66 (95.7%)	1 (0.6%)	2 (1.2%)	165 (98.2%)	1 (0.9%)	7 (6.1%)	106 (93.0%)		
セ 大人の使う道具を持ち出して何か作ったこと	11 (15.9%)	24 (34.8%)	34 (49.3%)	15 (8.9%)	72 (42.6%)	82 (48.5%)	16 (14.0%)	55 (48.2%)	43 (37.7%)		
ソ せみ、かえる、かに、魚など外から持ち帰った生き物を家で飼ったこと	11 (15.9%)	38 (55.1%)	20 (29.0%)	36 (21.3%)	88 (52.1%)	45 (26.6%)	30 (26.3%)	61 (53.5%)	23 (20.2%)		
タ 自分でとってきた種や苗を植えたこと	4 (5.8%)	25 (36.2%)	40 (58.0%)	17 (10.1%)	69 (40.8%)	83 (49.1%)	13 (11.4%)	60 (52.6%)	41 (36.0%)		
チ きいちごなど野生の木の実や野草を自分でとって食べたこと	3 (4.3%)	15 (21.7%)	51 (73.9%)	17 (10.1%)	44 (26.2%)	107 (63.7%)	3 (2.6%)	47 (41.2%)	63 (55.3%)		

(* P<0.05 ** P<0.01 df=2)

表29 感動して知らせにきたり質問したり自然に関して話題になること

	4 歳			5 歳			6 歳			有意差 4-5歳
	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	◎よくある	○時々ある	△殆どない	
ア 月・星・太陽など天文に関したこと	15 (21.7%)	42 (60.9%)	12 (17.4%)	36 (21.4%)	101 (60.1%)	31 (18.5%)	37 (32.5%)	61 (53.5%)	16 (14.0%)	
イ 雲や雨・風・にじ・夕やけなど気象に関したこと	20 (29.0%)	42 (60.9%)	7 (10.1%)	38 (22.6%)	109 (64.9%)	21 (12.5%)	46 (40.4%)	56 (49.1%)	12 (10.5%)	** $\chi^2=10.434$
ウ 草花や木, 種や芽など植物に関したこと	14 (20.6%)	47 (69.1%)	7 (10.3%)	37 (22.0%)	107 (63.7%)	24 (14.3%)	35 (30.7%)	71 (62.3%)	8 (7.0%)	
エ 虫・にわとり・犬・象など生き物・動物に関したこと	22 (31.9%)	44 (63.8%)	3 (4.3%)	62 (36.9%)	100 (59.5%)	6 (3.6%)	49 (43.0%)	59 (51.8%)	6 (5.3%)	
オ 温泉や溶岩, 火山灰など岩石に関したこと	3 (4.4%)	19 (27.9%)	46 (67.6%)	5 (3.0%)	39 (23.2%)	124 (73.8%)	15 (13.2%)	34 (29.8%)	65 (57.0%)	** $\chi^2=13.818$
カ 自動車や機械などに関したこと	11 (16.2%)	31 (45.6%)	26 (38.2%)	28 (16.7%)	80 (47.6%)	60 (35.7%)	20 (17.5%)	54 (47.4%)	40 (35.1%)	
キ 水の流れや浮力・光りの反射・空気の揚力など物理現象に関したこと	1 (1.5%)	29 (42.6%)	38 (55.9%)	6 (3.6%)	47 (28.0%)	115 (68.5%)	12 (10.5%)	39 (34.2%)	63 (55.3%)	* $\chi^2=7.896$

(* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ $df = 2$)

表30 子供のために生き物を飼育したことがあるか

	4 歳	5 歳	6 歳
ア あり	52 (75.4%)	129 (76.3%)	100 (87.7%)
イ ない	17 (24.6%)	40 (23.7%)	14 (12.3%)

表31 子供のために植物の栽培をしたことがあるか

	4 歳	5 歳	6 歳
ア あり	62 (89.9%)	144 (85.2%)	104 (91.2%)
イ ない	6 (8.7%)	24 (14.2%)	9 (7.9%)

表32 かわいがっていた生き物の死を体験したことがあるか

	4 歳	5 歳	6 歳
ア はい	26 (37.7%)	75 (44.4%)	60 (52.6%)
イ いいえ	42 (60.9%)	90 (53.3%)	52 (45.6%)

VI 結 論

本研究は356名の幼稚園園児の保護者を対象に, 幼稚園園児の家庭, 地域, 幼稚園生活における自然とのふれ合いについて調査した。同時に保護者の幼少のころの自然とのふれ合いについても回答を求めた。満年齢3歳児を除く回答について, 現在の子供の自然とのふれ合いの傾向, 性差, 年齢による傾向について考察した。その結果次のような点を確認することができた。

a 現在の子供たちの様子

記入者の主観による回答ではあるが、現在の子供たちは記入者の幼少のころと比較して、

- ① 遊びの場として室内遊びよりも戸外遊びを好む割合が減少し、さらに田畑、川、野原など整地されていない土地や広い草地、海岸、土手など、人間の手によって管理されていない自然の場で遊ぶことが有意に減少している。
- ② 戸外で一緒に遊ぶ人としては、きょうだいと遊ぶことが増え、同年齢の友達と遊ぶ率、特に異年齢の友達と遊ぶことが減っている。
- ③ 遊びの内容や自然とふれ合う体験についても、付近にある自然のものを遊びに取り入れての、ごっこ遊び、伝承遊び、身体全体を使う遊びが有意に減少している。野生の生き物を自分で捕まえる経験もトンボやセミを始めとして身近な生物全般に有意差をもって減少しているが、だんご虫、かぶと虫、くわがたについては現代の子供のほうがよく捕まえている傾向がみられる。また野生の木の実や野草を自分で採って食べることを始めとして、川や池で石を投げたりといった自然とふれ合う経験が明らかに減少している。

ま子供たちの8割の家庭で子供の教育を意識して生き物を飼育、また9割の家庭で植物の栽培をしたことがあるが、生き物については、その6割が金魚、熱帯魚などの小動物である。子供たちのほぼ半数がかわいがっていた生き物の死の体験をもっている。

b 性 差

- ① 遊びの場としては大きな差はみられないが、自分の家の庭、アスレチックなどの設備のある遊園地での遊びは女兒に、家畜のいるところでの遊びは男児にそれぞれ有意に多い。
- ② 自然と直接ふれ合う遊びや体験に関しては、地中の虫を掘り出す遊び、川や池で石を投げることと外から持ち帰った生き物を家で飼うこと、犬や猫を追い回すこと、雨降りに外でかさなしで遊ぶ、服を破ったり、泥だらけで帰ってくる、大人の道具を持ち出して使う、といった遊びや行動は男児に有意に多い。女兒に有意に多かったのは、小石、貝がら、花などの自然物を集めること、自然物を取り入れてのごっこ遊びや伝承遊び、野生の木の実や野草などをとって食べることであった。

野生の生き物を捕まえることについては、全般に男児のほうが多く、有意差のみられたのは、とんぼ、せみ、ばった、かぶと虫、くわがた、みみず、おたまじゃくし、かえる、かにであった。

- ③ 感動して記入者に知らせにきたり、質問したりするなど、よく話題になる事柄としては、男児では生き物・動物に関すること、自動車や機械に関することが女兒に比べて多い。
- ④ 生き物の飼育に関しては、男児の家庭の方が子供の教育のために飼育したことがあると回答している比率が高いが、植物の栽培とともにあまり顕著な差は認められなかった。

c 年齢による傾向

有意差のみられたものを挙げると、

- ① 遊びの場については、5歳と6歳の間で砂場が増えている。
- ② 自然とふれ合う遊びや体験に関しては4歳と5歳の間で、犬や猫を追い回すこと、せみ、かに

を自分でつかまえることが増える。5歳と6歳の間では、自然のものを取り入れてごっこ遊びや伝承遊び, 身体全体を使う遊び, かざぐるまや凧などを使う遊び, とんぼ・かぶと虫・くわがた・だんご虫・おたまじゃくし・かえる・かに・めだかを自分で捕まえること, 高いへいや崖を歩く, 犬や猫を追い回すことが増える。

③ 話題にのぼる事柄としては5歳と6歳の間で気象に関する事, 岩石に関する事, 物理現象に関する事が多くなっている。

なお泥・土いじり, 砂遊びは4, 5, 6歳いずれの年齢においても, 幼児においてたいへん好まれる遊びであるといえよう。

今後さらに居住環境, 保育年数の違い等による自然との関わりへの影響について検討していきたい。

参考・引用文献

- (1) 赤塚・森編 (1986) 「乳幼児の保育原理」(山元多喜司監修, 保育入門シリーズ) 北大路書房
- (2) 南川幸編 (1985) 「乳幼児の自然指導」(山本多喜司監修, 保育入門シリーズ) 北大路書房
- (3) 島田俊秀 (1988) 「人の成長・発達を規定するもの—幼児の遊びを育てる環境要因—」(全国国公立幼稚園長会, 幼稚園じほう)
- (4) 村山貞雄編 (1987) 「日本の幼児の成長・発達に関する総合調査—保育カリキュラムのための基礎資料—」サンマーク出版
- (5) 池山和子・島田俊秀 (1988) 「幼児の家庭, 地域, および幼稚園生活における自然とのふれ合いに関する研究(1)」日本保育学会第41回大会発表論文集 pp. 442—443

〔資料〕 調査用紙

「幼児と自然のかかわり」に関する実態調査

鹿児島県「幼稚園教育の在り方について
の実践的調査研究」研究推進協力委員会

〔保護者へのお願い〕

本調査は、幼児と自然のかかわりの実態を調査し、今後の幼稚園教育の在り方について参考にしようとするものです。お忙しいところを恐縮に存じますが、調査の目的を御理解いただき各項目に御回答下さいますようお願い申し上げます。なお、この調査は鹿児島における幼児の自然とのふれ合いの実態を調査するもので、お宅のお子さんに関して評価をすると言うものではありません。ですから調査の対象となる幼児が日ごろ示している行動の様子について、自然とのふれ合いに関する各項目についてありのままを正しく、またもれなく御回答下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

〔注意〕

- (1) お宅の子供さんの日ごろの行動や父母の皆さんが感じていることをありのままに記入してください。
 - (2) 記入し終わったら、もう一度見直して記入もれがないかどうかを確かめてください。
 - (3) 回答が終わりましたら出来るだけ早く、本調査用紙を幼稚園の先生に届けてください。
- ※ お忙しいところを恐縮に存じますが、くれぐれもよろしくご協力のほどをお願い申し上げます。

〔記入上の注意〕

- * [] にあてはまる事柄を記入し、[] の中に1, 2……のように選択肢のある項目についてはあてはまるものを1つだけ選んで選択肢の番号に○をつけてください。

記入年月日〔昭和 年 月 日〕

- 1 幼児の氏名 [], 生年月日〔昭和 年 月 日〕
- 2 幼児の性別〔1 男, 2 女〕, 満年齢〔6歳児, 5歳児, 4歳児, 3歳児〕
- 3 居住地域別〔1 農・山・漁村, 2 商業, 3 工業, 4 団地住宅地域, 5 団地を除く住宅地域〕
- 4 住宅〔1 一戸建, 2 集合住宅〕
- 5 あなたの住宅のまわりは、自然に十分恵まれていると思いますか。
〔1 十分と思う, 2 普通と思う, 3 乏しいと思う〕
- 6 お子さんは、幼稚園に通園し始めてから何年目ですか。(保育所通所を含む)
〔1 1年目, 2 2年目, 3 3年目, 4 4年目, 5 5年目以上〕
- 7 お子さんは、今の幼稚園に入園する前に転居の経験が有りますか。
〔1 無い, 2 1回, 3 2回, 4 3回以上〕
- 8 お子さんは、何人ですか。
〔1 1人, 2 2人, 3 3人, 4 4人, 5 5人以上〕

9 調査の対象となったお子さんは，上から何番目ですか。

〔1 1番目，2 2番目，3 3番目，4 4番目，5 5番目〕

10 おじいさんおばあさんと同居していらっしゃいますか。

〔1 同居していない，2 祖父と同居，3 祖母も同居，4 祖父母と同居〕

11 この調査用紙に記入している方は，お子さんとどういう関係にあたりますか。

〔1 父，2 母，3 祖父，4 祖母，5 その他〕

(1) お宅のお子供さんは，幼稚園に行っていない時，家の中と外とではどちらで遊ぶ方が好きですか。

現在の子供さんにあてはまるものに1つ○を付けてください。

また，記入者の幼少の頃にあてはまるものに1つ△をつけてください。

	現在の子供さん○1つ	記入者の幼少のころ△1つ
ア 室内遊びの方が好き		
イ 戸外遊びの方が好き		
ウ どちらも同じくらい好き		
エ わからない		
オ 室内にすることが多いがテレビなどを見るほかにあまり遊んでいない		

* オに○をつけられた方は，次のことにお答えください。

子供さんがテレビなどを見るほかに遊びらしい遊びをしないのは何故だと思いますか。

考えられる理由を，出来るだけくわしく書いてください。

(2) 戸外で遊ぶ時一緒に遊ぶ人は次の誰ですか。(よく遊ぶことの多い項目に1つ○をする。)

現在の子供さんにあてはまるものに1つ○をつけてください。

また，記入者の幼少の頃にあてはまるものに1つ△をつけてください。

	現在の子供さん○1つ	記入者の幼少のころ△1つ
ア 1人で遊ぶ		
イ 親や大人と遊ぶ		
ウ きょうだいと遊ぶ		
エ 同年齢の友達と遊ぶ		
オ 違う年齢の友達と遊ぶ		

*その他 (具体的に記入してください。現在の子供さんのことか記入者の幼少のころのことか明記してください)

--

(3) 戸外で遊ぶときの場所はどこですか。

現在の子供さんに当てはまるものを3つ選んで、多い順に1から3まで番号を付けてください。また、記入者自身の幼少のころに当てはまるものも3つ選び多い順に1から3まで番号を付けてください。

	現在の子供さん	記入者の幼少のころ
ア 自分の家の庭		
イ 友達の家		
ウ 道路		
エ 神社やお寺		
オ 田畑		
カ 川		
キ 海		
ク 山		
ケ グランド・公園など整地された土地		
コ 野原など整地されていない土地		
その他 (具体的に記入してください。現在の子供さんのことか記入者自身の幼少のころのことか明記してください。)		

(4) 次のような場所で遊んだことがありますか。下の3つの符号のどれかで答えてください。

現在の子供さんにあてはまること、また記入者自身の幼少の頃にあてはまることについて、それぞれの欄に「よくある」を◎、「時々ある」を○、「ほとんどない」を△でお答えください。

	現在の子供さん	記入者の幼少のころ
ア アスレチック・ブランコなどのある遊園地		
イ ジェットコースター・ティーカップなどのある遊園地		
ウ 砂場		

エ 広い芝生や草地		
オ 花壇などのある整備された場所		
カ 動物園		
キ 草や木の多い整備されていない場所		
ク 山林・森などスリルのあるところ		
ケ 川原・小川・田・小さな池など		
コ 海岸		
サ 土手・がけ		
シ 牛・にわとりなどの家畜のいるところ		
ス 建築・工事現場の近く		
セ 小人数でゲームなどのできるちょっとしたあき地		
* その他 (具体的に記入してください。現在の子供さんのことか, 記入者自身の幼少のころのことか明記してください。)		

(5) 次のような自然とふれ合う遊びをしたことがありますか。

現在の子供さんにあてはまること, また記入者自身の幼少のころにあてはまることについて, それぞれの欄に「よくある」を◎, 「時々ある」を○, 「ほとんどない」を△でお答えください。

	現在の子供さん	記入者の幼少のころ
ア 泥・土いじり, 砂遊び		
イ 水てっぽう・しゃぼん玉・色水作りなどの水遊び		
ウ カブト虫など地中の虫を掘り出す		
エ 小石, 貝がら, 水の実・花などを集める		
オ 付近にある自然のものを取り入れてのごっこ遊びや自然のものを利用した伝承遊び (笹船作りなど)		
カ 木のぼりや草の上を転がったり土手すべりをしたりするなど自然物を使って体を動かす遊び		
キ アリの行列など生き物の動きをじっと見る		
ク たこをあげたり, かざぐるまを回したりして工作物を使って遊ぶ		
* その他 (具体的に記入してください。現在の子供さんのことか, 記入者自身の幼少のころのことか明記してください。)		

(6) 次のような野生の生き物を自分でつかまえたことがありますか。

現在の子供さんにあてはまることを子供欄に、また記入者自身の幼少のころにあてはまることについては保護者欄に「よくある」を◎、「時々ある」を○、「ほとんどない」を△でお答えください。

	ア とんぼ	イ せみ	ウ ばった	エ ちょう	オ かぶと虫	カ くわがた
子供さん						
保護者						

	キ かみきり	ク だんご虫	ケ あり	コ みみず	サ いも虫	シ 毛虫
子供さん						
保護者						

	ス おたまじゃくし	セ かえる	ソ かに	タ かたつむり	チ くも
子供さん					
保護者					

	ツ へび	テ とかげ	ト ふな	ナ めだか	ニ どじょう	ヌ はと	ネ すずめ
子供さん							
保護者							

* その他（具体的に記入してください。現在の子供さんのことか、記入者自身の幼少のころのことか明記してください。）

(7) お宅の子供さんは、次のようなことをしたことがありますか。

現在の子供さんにあてはまること、また記入者自身の幼少のころにあてはまることについて「よくある」を◎、「時々ある」を○、「ほとんどない」を△で、それぞれの欄にお答えください。

	現在の子供さん	記入者の幼少のころ
ア 骨を折ったこと		
イ 服を破ったり泥だらけで帰ったりしたこと		
ウ すり傷やこぶをこしらえたこと		
エ 虫に刺されたりかぶれたりして帰ってきたこと		
オ はだしで庭や外を歩いたこと		
カ 雨降りにカサもささずに外で遊んだこと		

キ	水をかけあって遊んだこと		
ク	川や池で石を投げたこと		
ケ	高いへいやがけを歩いたこと		
コ	森や洞くつを探検したこと		
サ	犬や猫などを追い回したこと		
シ	花壇や畑の中には入って荒らしたこと		
ス	鳥の巣から卵を取ったこと		
セ	大人の使う道具を持ち出して何か作ったこと		
ソ	せみ，かえる，かに，魚など外から持ち帰った生き物を家で飼ったこと		
タ	自分でとってきた種や苗を植えたこと		
チ	きいちごなど野生の木の实や野草を自分でとって食べたこと		

- (8) お宅の子供さんは，自然物や自然現象について感動して知らせに来たり，質問したりして記入者と一緒にそれを見ながら話をしたりしたということがありますか？

それぞれの項目について「よくある」を◎，「時々ある」を○，「ほとんどない」を△で，記号欄にお答えください。

	記号欄
ア 月・星・太陽など天文に関したこと	
イ 雲や雨・風・にじ・夕やけなど，気象に関したこと	
ウ 草花や，種や芽など植物に関したこと	
エ 虫・にわとり・いぬ・象など生き物に・動物に関したこと	
オ 温泉や熔がん，火山ばいなど岩石に関したこと	
カ 自動車や機械などに関したこと	
キ 水の流れや浮力・光の反射・空気の揚力など物理現象に関したこと	
* 上記のことで子供さんの興味関心をひいたことで印象深く覚えていらっしゃるがありましたら何でも書いてください。	

- (9) お宅では、子供の教育のために（生活・趣味のためも含む）生き物を飼ったことがありますか。
ア はい、イ いいえ、いずれかの欄に○をしてください。

ア はい		イ いいえ	
<p>はいとお答えになった方は、次のどれですか。飼ったことのある項目の符号に○をつけてください。</p> <p>ア 金魚・熱帯魚など イ かなりあ・文鳥など小鳥類 ウ 犬・猫など エ にわとり・しゃもなど オ やぎなど家畜類</p>			
* その他（具体的に記入してください。）			

- (10) お宅では、子供の教育のために（生活・趣味のためも含む）花や野菜など作ったことがありますか。
ア はい、イ いいえ、いずれかの欄に○をしてください。

ア はい		イ いいえ	
<p>はいとお答えになった方は、次のどれですか。つくったことのある項目の符号に○をつけてください。</p> <p>ア 卓上菜園、植木ばち、プランターなど イ 庭の花壇、草木類 ウ 菜園・畑など エ 市民農園など、借地としての農作業</p>			
* その他（具体的に記入してください。）			

- (11) お宅の子供さんがかわいがっていた小鳥や動物が死んだことがありますか。
ア はい、イ いいえ、いずれかの欄に○をしてください。

ア はい		イ いいえ	
<p>「はい」と答えた方にお尋ねします。その時のお子さんの様子とお宅でどのようになされたか、などを出来るだけくわしくお書きください。</p>			

- (12) お宅の子供さんに自然にふれさせるために、次のようなことについて、手伝わせたり体験させたりしたことがありますか。

「よくある」は◎、「時々ある」は○、「ほとんどない」は△で、記号欄にお答えください。

	記号欄
ア キャンプ・ハイキング・オリエンテーリングなどに連れていった。	
イ ドライブに連れていき美しい自然にふれさせた。	

ウ 栗拾い・いも堀り・いちご狩りなどに連れていった。	
エ お手伝いとして，なっている果物や畑の野菜などをとってこさせた。	
オ なま卵をわらせたり，えんどうをさやから取り出させたりなどさせた。	
カ 庭の水まきをさせた。	
キ 火山灰の除去を手伝わせた。	
ク 草むしりを手伝わせた。	
ケ 石運びを手伝わせた。	
コ 落ち葉をはく手伝いをさせた。	
サ 種をまいたり，水をやったり草や花の世話の手伝いなどをさせた。	
シ 餌をやったり，ふんの掃除をしたり，生き物の世話の手伝いなどをさせた。	
ス 日曜大工や機械いじりの手伝いをさせた。	
* その他（具体的に記入してください。）	

13 自然とふれ合うということでお宅の子供さんは，十分体験していると思いますか。

ア 十分に体験している，イ 普通，ウ 体験が足りない，いずれかの欄に○をつけてください。

ア 十分に体験している		イ 普通		ウ 体験がたりない	
* 体験が足りないに○をつけた方にお尋ねします。 お宅の子供さんにどんなことを特に体験させたいとお考えですか。 具体的に記入してください。					

14 次の項目の中にお宅の子供さんにさせないようにしている，あるいは子供さんに禁じていることがありますか。禁じている項目については，記号欄に○をつけてください。できましたらその理由も書いてください。

	記号欄	禁じたり，させないようにしている理由
ア 草や花を育てること		
イ 生き物をつかまえること		
ウ 生き物を飼うこと		
エ 生き物の死を体験させること		
オ 一人で家の外へ出ること		

カ	家の外で遊ぶこと		
キ	家の内で遊ぶこと		
ク	一人で遠出すること		
ケ	夜の外出		
コ	服を汚すこと		
サ	家の中を遊びで汚したり傷つけること		
シ	ナイフやのこぎりなどの道具を一人で使うこと		
ス	外で拾ったものを家の中へ持ちこむこと		
セ	水遊びやどろ遊びなど		
ソ	川や海などで一人で泳ぐこと		
* その他（お宅の皆さんにさせないようにしている、あるいは禁じていることを具体的にお書きください。			